語釈 ： インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語（63）

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後　藤　　寛

読み、書き、そろばん（珠算）というが英語にも the 3 R's（**Reading, Writing** and *Arithmetic*）という人間の日常生活上での基本となる言葉がある（*arithmetic* はプラスαBasic 語）。日本では江戸時代に寺小屋で僧侶や神宮や武士が庶民に 3 R's を教えていた。英語入門期に夏休みにお寺にでも合宿（？）し、ネイティブによるチェックで（それが困難なら録音テープをよりどころに）仏僧の経典読みのごとく検定本３巻のひたすらな反復 reading の修行を積めば、手早く確実に英語の魂が入り休み明けにはいわゆる英語の学力は一挙に飛躍しているだろう。検定本３巻の九九並みの音読 reading である。英語以外にも学力全体の土台となる算数・数学にもっと力を入れるとよい〔なお、九九や四則演算に関連しては EP 本なら III, p.169 での addition, *subtraction, multiplication*, division（*subtraction, multiplication* はプラスαBasic 語）の例参照〕。

母語話者ではない日本生まれの日本育ちの日本人にとっては英語は外国語であり、一般に writing や speaking はつたないものとなる。まずは書かれたものを読むこと、発話されたものを聴くことからとなるが、そもそも Ogden-Richards の *The Meaning of Meaning* (1923)も **reading と listening の観点**からの意味の問題を扱っているわけで、writing や speaking ではない。reading / listening での理解法にもっと注目したい。日本人が何かに驚いて "Oh, my God !" などと言ったりすることは難しいし、年末に Merry Christmas ！と人に言えるか？である。Xmas のもつ本来的な理解・認識も必要となる。

数学などの科学は終始、フェイクではない真(true)なることを見定めるわけであるが、英語という言語で示される意味を日本人がどこまで正しく理解できるか？それを見定めていく中立な１つの尺度はやはり数学的な Basic 言語だろう。これを学びたい。'the Basic way of learning English' であり、純粋で orthological な理解法となる。

EP 本 I~III は Ogden-Richards が *The Meaning of Meaning* で水面上に見える部分のみを見せたいわば「氷山の一角本」(a book of 'the-tip-of-the-iceberg')であり、実際には見えない水面下にある構造の見定めとなる。EP 本の背景にある考え方は現実には決して単純なものではなく *The Meaning of Meaning* 等からさらにヒントを探る必要がある。The Semantically Sequenced Way (SSW) of Learning English（SS 法と称しておこう）とは何か？また、前々回(61)で触れた土居光知氏の Basic を参考とした「**基礎日本語**」の構想を念頭に、外国人向け本格的な **Japanese through Pictures**（JP 本）の編纂も考えられてよかろう。ただこれも単にいわゆる P（絵）以外に何があるか？ 研究会としては特に目下、大学院修士・博士課程で研究中の若手会員の研究発表、論文に注目したい。

今回は(1)、(2)で米国での銃所持に関するもの、そして(3)では米国民にとって精神的に必要なものに関し簡潔に示される内容のものをスペイン語翻訳版とも対照し見てみる。

(1) Leaving El Paso for the White House.　What GREAT people I met there and in Dayton, Ohio.　The Fake News worked overtime trying to disparage me and the two trips, but it just didn't work.　The love, respect & enthusiasm were there for all to see.　They have been through so much.　Sad !　(August 7, 2019)

▲耳で読む速読(quick reading through the ear)でいきたい。相変わらず記号(&)、大文字書き、感嘆符(！)を多用し感情移入をする Trump 正字法(Trump orthography)を見る。

この tweet には背景的な内容を補っておく必要もあるが、実はこの tweet の数日前に Texas 州の El Paso（スペイン語で「峠」の意味）と Ohio 州の Dayton で銃乱射事件が起き、両方を合わせ 30 人以上の死者と多数の負傷者がでた。容疑者はいずれも白人で、El Paso の事件は中南米からの移民を標的にした憎悪犯罪(hate crime)だとされた。

メディアや野党民主党は Trump 大統領自身の白人至上主義的な人種差別(racism)がこういう憎悪犯罪を助長したのだと非難した。本連載(59)の(1)で扱ったが、Trump 大統領がこの３週間ほど前に４人の非白人女性下院議員に“来た国へ帰ったらどうか！”と言ったこととも無関係ではないとも評された。ただし、Trump 氏自身は４人の女性議員が政権の移民政策に関し、何かと過激な発言をしたことがそもそも問題だと弁明した。この tweet で Trump 氏は自分は人種差別主義者(racist)などではないと主張する形となる。

「El Paso から White House へ戻るが、El Paso と Dayton で会った人たちは立派であった。偽メディアはこの２つの地へ追悼のため来た私を時間外勤務までして悪者呼ばわりをしようとしたが、そんなことはできなかった。あそこには愛と尊敬の念と情熱があった。皆、苦痛に耐えたのだ。悲しいことだ！」と言っている。

太線語 disparage は文脈推理で負のイメージ語であると推測できる。{dis (= not) + par (= equal) + age}で、Basic 語をあてがって考えれば **parallel, part, parcel, separate, comparison, apparatus** などとも同系であることが見えてくる。ここでは「並行でないこと」→「相容れないこと」の意味となる。プラスαBasic 語、un-Basic 語にも多くの語が同系語となっている〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(93)参照〕。

太線語 enthusiasm（情熱）の root sense を押さえておきたい。原義を押さえず理解していても情熱どころか冷めた語となってしまう。この語の背景には「神」が隠れている。{en (= in) + thusi (= *God*) + asm (= condition)}で、情熱とは「神が心の中に入った状態」ということになる。theology（神学）{the (= *God*) + ology (= science)}という語もここから生まれた。Basic 語 **theory** は同系である。enthusiasm [inθú:ziæzm]や、これの形容詞形 enthusiastic [inθù:ziǽstik] などでの [θ]音と[s]音も明確に聴き分けができるか？[l], [r]とともに[θ], [s]の聴取も日本生まれの日本育ちの日本人には深刻な問題である。

下線とした文 They have been through so much.の空間詞 through の語感をつかみたい。彼らは「多くを突き抜けてきた」→「多くの困難を乗り越えてきた」の意味となる。

(2) Serious discussions are taking place between House and Senate leadership on meaningful Background Checks. I have also been speaking to the NRA, and others, so that their very strong views can be fully represented and respected. Guns should not be placed in the hands of mentally ill and deranged people. I am the biggest Second Amendment person there is, but we all must work together for the good and security of our Country. Common sense things can be done that are good for everyone！ (August 9, 2019)

▲Trump 氏の銃に対する考えがよく分かる。彼は銃保持には一貫して賛成の立場である。「上下院のリーダーシップの下で（銃保持の）身元確認に関する意義ある討議が行われている。私は彼らの見解とそれを尊重することを全米ライフル協会(NRA: National Rifle Association of America)などには伝えている。銃は精神病など異常な人物の手に渡ってはならない。私はアメリカ合衆国憲法修正第２条に定められている銃保持の権利を強く支持する者であるが、わが国の健全と安全のため互いに協力していかねばならない。あらゆる人のための常識は実行できる」という内容である。

参考までにアメリカ合衆国憲法修正第２条の英文原文と日本語の訳例を掲げておく。

A well regulated Militia, being necessary to the security of a free State, the right of the people to keep and bear Arms, shall not be infringed. ― *2nd Amendment to the Constitution of the*

United States「規律ある民兵は、自由な国家の安全にとって必要であるゆえ、人民が武器を保有・携帯する権利は、これを侵してはならない」

なお、ここでは文中の being …（～であるので）、法律用語の shall not …（～を禁じる）の語法には要注視。また、*2nd Amendment to the Constitution of the United States* での to もポイントである。amendment（修正）は to と共起する。英語の to には必ずベクトル的な力と方向の意味がある。何かを修正することとは「そちらへ向けること」。

上の(2)の tweet text では下線部 on meaningful Background Checks の on は文頭の Serious discussions と結合し、Serious discussions on … だと見定めることになる。

末尾の下線部 Common sense things（いくつもの常識事）では、複数としての言い方で things にも注目しておきたい。「常識がある、ない」などと一般に軽々しく使われるが、常識論(theory of common sense)は高尚な哲学であり、これには一方で神の存在の考え方がある。神は common sense の 'sense' を有する存在であるが、人間はそれを有していない。したがって人間はそれを「用いる」(to make use of it)必要があることになる。

太線語 deranged は Basic 語 **range**（列・並び）から形態素分解で推理できる。{de (= away) + range}で、「列を外れている状態」のことである〔なお、本連載で示している形態素分解(morphemic decomposition)ではすべて Basic 語本体の 850 語（稀にイタリック体表記でプラスαBasic 語）を用いている点は見逃されてはならない。**語はすべて Basic 語で定義できる**証しとして示してもいるわけで、重要なポイントである〕。プラスαBasic 語 *arrangement* などはもちろん同系語である。元来は「列をなし丸くなっていること」が原義で、実は Basic 語 **ring** などとも同系であるし、un-Basic 語 rank, ranch（牧場）などとも同系〔さらに掘り下げては同上拙著、第二部、例(150)参照〕。

〔以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01- 05)より ― ２言語対照〕

(3) As long as we open our eyes to God's grace ― and open our hearts to God's love ― then America will forever be the land of the free, the home of the brave, and a light unto all nations. (February 8, 2018)

cf. Mientras abramos los ojos a la gracia de Dios y nuestros corazones a su amor, los Estados Unidos serán por siempre la tierra de los libres y la casa de los valientes y una luz para todos los pueblos. (9 de febrero, 2018)

▲２言語併用で何度も反復読みしたくなる tweet である。前回言った目ではなく耳で読む幻聴黙読をするとよい〔筆者はこれを 'aurally hallucinated silent reading' と呼んでいる〕。「神の恵みに目を開き ― 同時に神の愛に心を開けば ― 米国は永久に自由人の地であり、勇士の故郷であり、全世界に向けられる光となるであろう」という内容。

文中の太線語 **long** は他の Basic 語 **line, linen, tongue, language, religion** と同系であるし、un-Basic 語 belong, colleague, oblige, ligament（じん帯）、lingerie（ランジェリー・女性用下着類）などもそうである。PIE etymon は/LINO/とされていて元来は「亜麻糸」のことで、原義は「線のようにつながっていること」である。この原義から各語を一括して見ると本来の共通な意味が感じられよう〔同上拙著、第二部、例(3)参照〕。

love は本連載(40) の(1)で見もしたが確認で他の Basic 語 **level, lift, belief** とも同系。原義は「心が浮き、安定すること」である。プラスαBasic 語 *delivery, lever*、un-Basic 語 elevator, liberty, relief, etc.も同系〔他の例は同上拙著、第二部、例(71)参照〕。

free は他の Basic 語 **friend** とも同系であることは本連載(47)の(2)でも確認済み。

nation は「種(たね)が生まれること」が原義で、他の Basic 語 **natural, name, general, engine** など、プラスαBasic 語では *gentle, origin* なども同系〔同上拙著、例(49)参照〕。

cf. のスペイン語 gracia, Dios, Estados Unidos, libres, valientes, luz, todos は、それぞれ英語の *grace*, Divine, United States, liberal, valiant, **light**, *total* に直接的に対応

すると同時に同系語である（太字体は Basic 語、イタリック体はプラスαBasic 語、下線は Basic の範疇語）。また、corazones (= heart), amor (= love), tierra (= land, earth)はそれぞれ英語の、たとえば courage, amateur, territory などと同系である。

ここで上の(3)での[l]音と[r]音（米音）の現れる箇所すべてに注目しておく。As **l**ong as we open ou**r** eyes to God's g**r**ace – and open our hea**r**ts to God's **l**ove – then Ame**r**ica wi**ll** fo**r**eve**r** be the **l**and of the f**r**ee, the home of the b**r**ave, and a **l**ight unto a**ll** nations.であるが、心の中でも何度も復唱し文全体の sonority（響き方）をイメージ化するとよい。本連載(58)でも言ったがネイティブ講師による英語のボイストレーニング教室(English Voice Training School : EVTS)［仮称］でも開設され、入門期に検定本３巻の[l], [r]音を軸にした音読 reading 法が徹底され、オーディション審査（？）なども実施されるとよいか？

(3)の text で破線で示した箇所にいくつも determiner（限定詞）としての article（冠詞）the, a を見るが、EP 本 I の p.10 で This is a hand.　This is the thumb.　These are the fingers.という文例の中に the が初出となる。明示化はされてはいないにせよ、深層での of a hand をすでにここで見ることとなる［the thumb (of a hand), the fingers (of a hand)]。**situational reference（状況照応）**で部分・全体関係 thumb / fingers ⊆ hand の the は日本人には難点である。一方で spatial particle（空間不変化詞）の of が EP 本 I では頁を飛び p. 16 で This is the floor of the room.という文例で初出となる。

実は当初から筆者は p. 10 での the の提示例は grade 上で抵抗感を抱いていた。EP 本の本会用マニュアル *Revised Teachers' Handbook for English Through Pictures* (Bks I, II)［再改訂版(1980, p. 6)］で、ここでの the は grading 上で問題だと判断されたようでその点はよかった。ただ「実践」となると日本人には話は別ともなる。p.10 での the と p. 16 での of の同時提示なら英語での指示的限定性の一端がより手早く理解はされよう。さらにこのあたりは p.18 で初出となる所有格の 's が無生物名詞の場合には一般に of となる限定性の問題も関わっていて、取り扱いは思うほど単純なものではない。

意味の restrictiveness（限定性）には Ogden-Richards の *The Meaning of Meaning* も注目するが、氷山の一角本 EP I-III の部分的・全面的な改編版の思索もよい。意識も変わってくる意義ある研究テーマの１つだろう。意味のいわゆるニュアンス(nuance)も影(shade)と見て 'the shade of meaning' と言うが、特別に納得できるものがある。

なお、影絵(shadow picture)も部分と全体を写し撮る**射影(projection)**としてのもので英語では the silhouette / reflection (＜the shaded part) of X となる。古代ギリシャのピタゴラス(Pythagoras)以前に生きた哲人のタレス(Thales)は幾何学・数学・天文学の知見に優れ、エジプトのピラミッドの高さを「**影**」から測定する方法を発見したことはよく知られる。これを筆者なりに図示するとともに Basic の範疇で説明文も一言付しておく。

I am here.

How tall is this **pyramid* ?　Over 2,500 years back Thales in Greece made use of a shade formed by his body under the bright sun for measuring the distance from the base up to the top of this sort of **pyramid* in Egypt.　(**pyramid*：one of the 101 international words in Basic)

Ogden-Richards も *The Meaning of Meaning* (pp.31-32)でタレス[θéili:z]に関して言及しているが、彼は**自分の立ち位置**での太陽光(sunlight)の影(shade)でピラミッドの高さを相似直角三角形から求めた。幾何学はさらに数学（代数学）と融合させ、デカルト(Descartes)座標軸(Cartesian coordinates)で見る解析幾何学(analytic geometry)へと展開もする。cf. "I think, therefore I am."「我思う、ゆえに我在り」— Descartes, R.